

第3節：快適な生活環境の創造

1 快適な都市空間の形成

これまでの成果

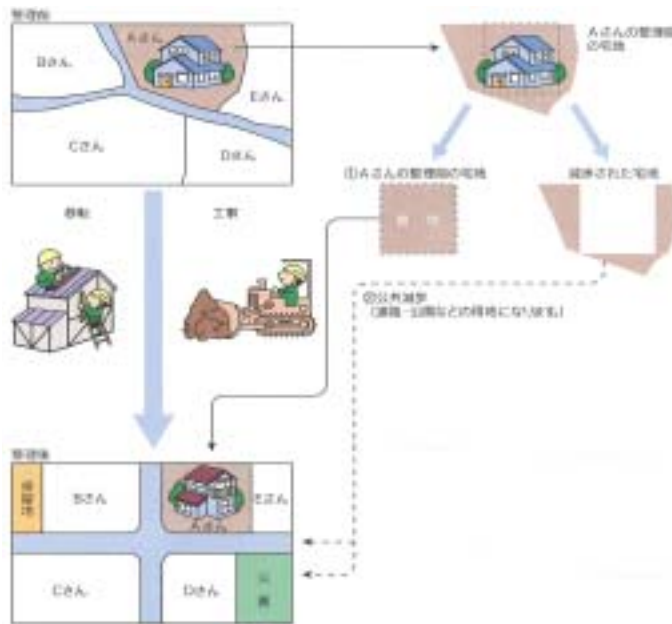
住みやすい緑豊かな都市空間を形成するため、土地区画整理事業や都市公園の整備などに取り組んでいます。

土地区画整理は、道路などの都市基盤施設が未整備な市街地や、今後市街地化が予想される地区について、公共施設の整備と同時に宅地の区画形状を整えるまちづくりの手法です。

これまでに11市の2,475haを、市町等とともに整備してきました。



大在土地区画整理事業 (大分市)



土地区画整理事業のしくみ

都市公園は、美しく風格のある都市や地域の形成、ヒートアイランド現象の緩和、多様化する住民のレクリエーションや自然とのふれあいの場として重要な役割を担っています。

これまでに、886箇所、面積にして1,026haの都市公園等を市町と共に整備してきました。

県内の都市公園等の状況

上段：箇所数 下段：面積単位(ha) 1人当面積(m²) (各小数点以下2桁表示) (平成16年3月31日現在)

公園種別	住区 基幹公園	都市 基幹公園	特殊公園	広域公園	緩衝緑地	都市緑地	広場公園	緑道	特定地区 公園	都市公園等 面積	都市計画 区域内人口 (千人)	1人当都市 公園等面積 (m ² /1人)
箇所	693	26	14	2	5	121	1	17	7	886		
面積	267.9	244	76.56	154.9	111.1	84.94	1.13	19.34	66.31	1026	998	10.3

都市計画区域内人口には、特定地区公園のある町村人口を含む



親子が共に遊び、楽しむ公園 (中津市：大貞公園)



休息、観賞、散歩、運動等総合的な利用に供する公園 (大分市：田ノ浦公園)



広域のレクリエーション需要を充足することを目的とした公園 (日出町：一村一品クラフト公園)

10年後の姿

よりよい都市空間をめざして

市等とともに、土地区画整理を進め、平成27年度までに整備面積2,863haをめざします。

市町村とともに、みどりとオープンスペースの確保に努め、平成27年度までに、一人あたりの都市公園等面積を13m²にします。

大分市や中津市、佐伯市などで市と共に土地区画整理を促進します。

脇津留土地区画整理事業(佐伯市)

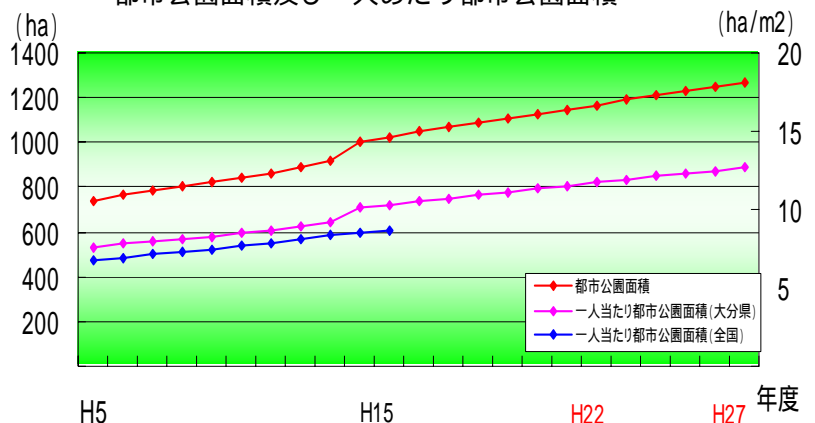


大地震や火災時の避難地となる防災拠点としての公園整備についても促進します。



新潟県中越地震
各被災地へ物資を配送
(鳥屋野潟公園、新潟市)

都市公園面積及び一人あたり都市公園面積



目標指標

	H6	現況(H16)	H27
土地区画整理施行面積	1,725 (ha)	2,475 (ha)	2,863 (ha)
一人あたりの都市公園等面積	(H7) 8.0 (m ² /人)	10.8 (m ² /人)	13 (m ² /人)

第3節：快適な生活環境の創造

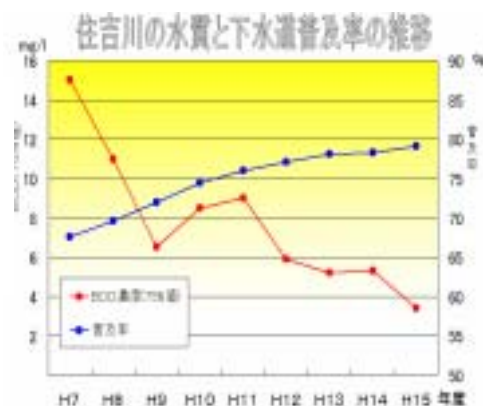
2 生活排水処理の向上

これまでの成果

海や川のごとの大部分は、生活排水が原因と言われています。私たちは自然環境の保全や快適な生活環境を確保するため、生活排水をきれいな水にして、海や川へ返さなければなりません。
そのため、公共下水道、農業（漁業）集落排水施設、浄化槽などの整備を行っています。

これまで、市町村とともに県民122万人のうち、72万人分（平成9年から7年間で19万人分）の生活排水を処理できる施設を整備してきました。

大分市の住吉川では
下水道の普及とともに水の汚れを示す指標BODが
平成7年 15mg/ℓ（魚の住めない大変汚い水）から
平成15年 4mg/ℓ程度（少し汚い水）へ
改善され、ふなや鯉が生息できる環境にまで回復しています。

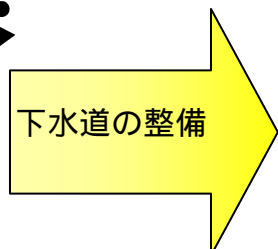


上流における汚濁

水のきれいさの段階	魚の種類	BOD
きれいな水	イワナ、ヤマメ	2mg/ℓ以下
少し汚い水	アユ	2~3mg/ℓ
	フナ、コイ	
汚い水	魚はほとんどすめません	5~8mg/ℓ
大変汚い水	悪臭がします	8mg/ℓ以上



住吉川の状況(平成7年撮影)



住吉川の状況(平成16年撮影)



県下の多くの地域で、今も生活排水が未処理のまま、川などに流されています。
全国と比較しても大分県の生活排水処理の整備は遅れています。
(平成15年度末 全国41位)

10年後の姿

子どもたちが遊べるきれいな海や川をめざして

平成27年度までに新たに32万人分が処理できるよう施設を整備していきます。

地域の実情に応じた効率的な生活排水処理施設の整備を促進します。

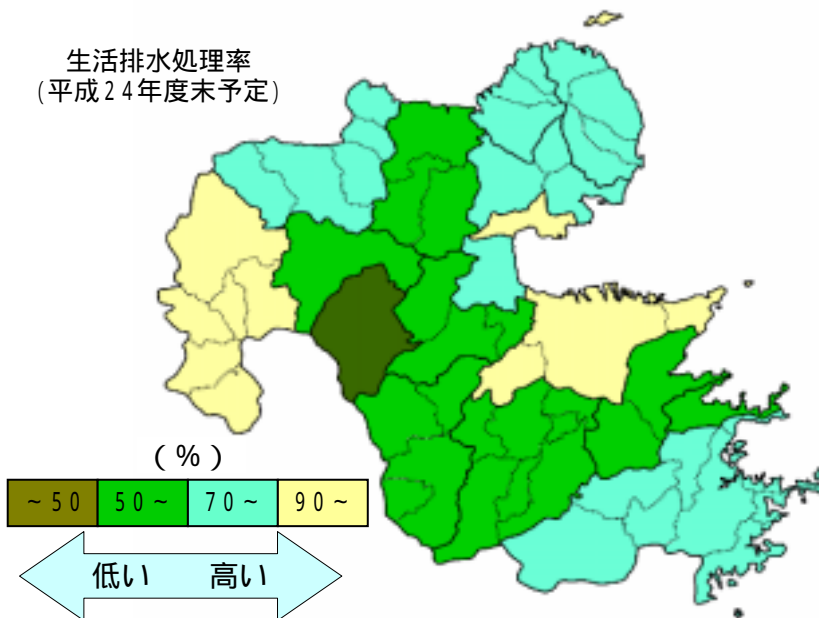


川や海の水をきれいに保つためには、「生活排水処理施設の充実」と「汚れた水をそのまま流さない」よう私たち一人ひとりの心掛けが必要です。このため、水環境に対する啓発活動などにも取り組んでいきます。

「ごみゼロおおいた作戦」の一環として、9月10日（下水道の日）から10月1日（浄化槽の日）を含む10月10日までを「生活排水きれい推進月間」と定め、水環境を保全するための県民運動を盛り上げていきます。

平成24年度までに10市町村で生活排水処理率が70%を越えます。

生活排水処理率
(平成24年度末予定)



水環境に対する啓発活動



子供たちによる水生生物調査の実施

目標指標

	H9	現況(H16)	H27
生活排水処理率 (生活排水処理施設を使用できる人口の割合)	51万人 41.0%	72万人 58.6%	104万人 90%

第3節：快適な生活環境の創造

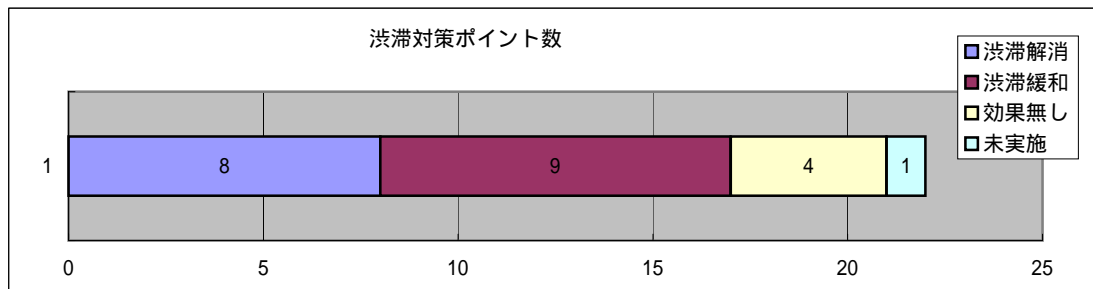
3 渋滞・騒音の軽減

これまでの成果

渋滞の軽減

交通の集中する交差点の改良、踏切の拡幅や立体化などに取り組んできた結果、22箇所の渋滞ポイントのうち、17箇所で効果が出ています。

渋滞対策実施プログラムの効果（平成10年度～平成14年度）



大分都市圏では、JR・バス等の公共交通機関の利便性を高めるとともに、マイカー利用から公共交通機関利用への転換を図る「シャトルバス」、「パークアンドライド」等を促進するとともに、朝夕の通勤時間の交通を分散させる時差通勤についても促進しています。

ドライバーに対する正確な交通情報提供（県警）により、交通の配分・誘導を促進しています。

例えば



整備前

工事施工
H2～11



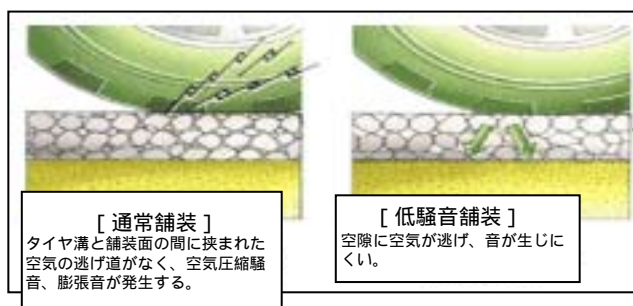
整備後

通過時間
最大8分短縮
渋滞長
最大700m短縮
バス専用レーンの
新設

国道210号 (大分市羽屋)

騒音の軽減

沿道の騒音が環境基準(夜間要請限度等)を超えた箇所では、排水性(低騒音)舗装の敷設等を行い、騒音の緩和を図っています。



事例	以前	改善値
国道197号(大分市久原)	69	65
中津吉富線(中津市宮夫)	73	64

(H12とH14年の比較 単位:デシベル)

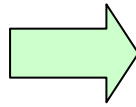
イライラのない交通環境をめざして

現在、渋滞が激しい22箇所（平成17年度新たに渋滞ポイントに指定した箇所）の対策を実施し、渋滞の軽減を図ります。

騒音が環境基準（夜間要請限度）を上回る区間で、対策が未実施の箇所については、排水性舗装等を実施していきます。

踏切除去（大分駅周辺の将来の姿）

現況



完成予想



上野踏切

大分駅付近連続立体交差事業により踏切を13箇所撤去します。

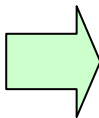
また、庄の原佐野線などの関連する都市計画道路の整備を行い、交通の円滑化をめざします。



踏切撤去箇所

バイパス工事（国道217号佐伯～弥生バイパスの将来の姿）

現況



完成予想



バイパスを整備

渋滞の激しい区間に重点的な対策を推進します。

（佐伯市）

「有料道路の利用促進」「右折レーンの延伸」「信号現示の調整」など地域の実情に合った対策を推進します。

目標指標

渋滞対策が必要な箇所数

H17

22箇所



H27

5箇所

第3節：快適な生活環境の創造

4 住宅環境の向上

これまでの成果

これまでの住宅施策は、住宅不足の解消と、居住水準（主として住宅面積）の向上を目標として公営住宅の建設・県民の持ち家取得に対する支援など、各種の施策を実施してきました。

住宅が量的に充足し、居住水準も徐々に向上してきたため、近年では老朽化した県営住宅の建て替えや改善、若者等の定住を促進するための住宅を整備する過疎市町村の支援などに重点的に取り組んでいます。

県内の住宅数と世帯数

	H10	H15
総世帯数	436,300	449,400
住宅総数	433,800	447,500
公営住宅管理戸数（H7.4.1現在）		
県営住宅		8,655
市町村営住宅		18,214

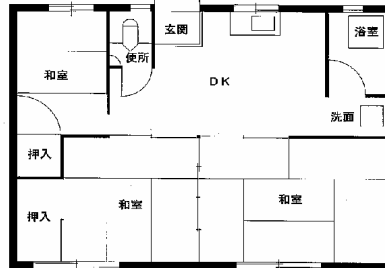
望ましい居住水準を満たす世帯の割合(%)

	H5	H10	H15
全世帯	47.1	51.2	56.0
持ち家	57.5	62.0	68.1
借家	28.5	32.7	35.4
民間借家	20.5	25.1	35.6
公営住宅	18.5	18.5	30.1

県営住宅建替事業（竹田市内）



建替前



建替後



1戸あたりの広さが
42m²から
51m²へ広く
なっています。

定住促進のための公共賃貸住宅団地



武蔵町 グリーンヒル団地

県は、中堅所得者が入居できる特定公共賃貸住宅のグレードアップに要する費用を補助（平成16年度までの実績）
市町村 672戸

しかし

住まいのあり方にも様々な課題が残されています。

高齢化社会への対応
社会的弱者の多様化・増加への対応
耐震など安全性の向上
自然環境と住まいの調和 等

10年後の姿

すべての人にやさしい安全・安心で快適な住宅をめざして・・・
 平成27年度までに建替と改修をあわせ、900戸の県営住宅の整備を行います。

ユニバーサルデザインの理念に基づき、県営住宅のバリアフリー化を進めます。

老朽した住宅の建替によりエレベータの設置等バリアフリー化の推進を行います。
 老朽が進んでいない住宅においては設備等の改修により高齢者の利用に配慮した
 高齢者対応住宅とするとともに、ストックの有効活用を図ります。



エレベータ等を整備し、バリアフリー化した住宅 既存県営住宅高齢者対応改修 施工例
 またぎ高さを低くして使いやすくした浴槽

大分県の気候・風土に適合し、環境に配慮した住まいづくりを促進します。

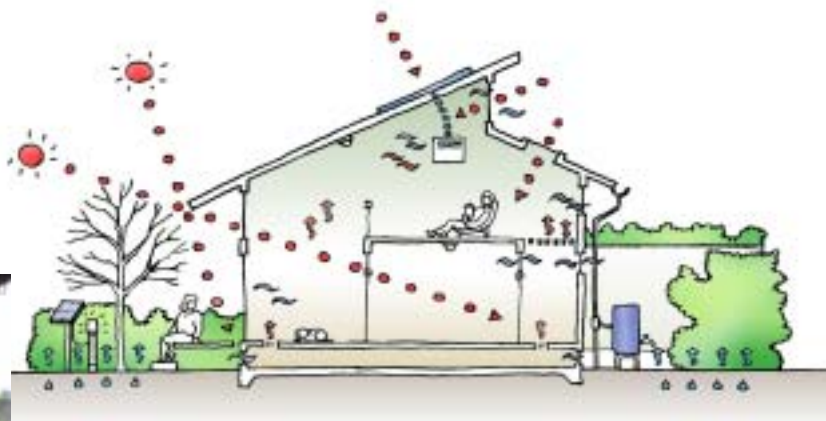
- ・ 木造住宅の振興
- ・ 環境に配慮した住宅の普及促進

(参考)

おおいたエコ建築のすすめ

4つの柱

- ・ 自然を活用する
- ・ 地球資源にやさしく
- ・ 地域に根ざした智恵
- ・ 省エネ・新エネ活用



太陽光や太陽熱などの自然エネルギーを活用
 風通しや緑化で温度調整を行う

目標指標

	H5	H16	H27
バリアフリー化された県営住宅の割合	1.9%	11.2%	22%
高齢者対応の県営住宅の割合	6.8%	21%	31%